



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（7月） New



（調査週）平成 24 年 第 3 1 週 7 月 3 0 日（月）～8 月 5 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.26	→	→	→	↓
2	ヘルパンギーナ	1.86	→	→	→～↓	↑↑
3	水痘	0.60	→	→	→	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.40	↓	↓	→～↓	↓
5	咽頭結膜熱	0.37	→～↓	↓	→	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は99例で、前週報告の87例から増加。上位5疾患は、①ヘルパンギーナ、②感染性胃腸炎、③水痘、④手足口病、⑤A群溶連菌咽頭炎の順で、ヘルパンギーナが4週連続で第1位。感染性胃腸炎の報告数（31例）は、増加。水痘の報告数（14例）も、増加。手足口病の報告数（5例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（4例）は、横ばい。ヘルパンギーナの報告数（33例）は、減少。眼科定点からの報告は、奈良市HC管内より流行性角結膜炎が1例あった。また、基幹定点からの報告が、奈良市HC管内より無菌性髄膜炎が1例（5～9歳児）、郡山HC管内より無菌性髄膜炎が1例（5～9歳児）とマイコプラズマ肺炎が1例あった。

（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、105例から110例とわずかに増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、A群溶連菌咽頭炎、手足口病及び突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、44例から46例と横ばいであり、咽頭結膜熱も、11例から13例と横ばいである。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県南部地区概況 報告数(第30週→第31週)は28例→29例と推移。報告のあった疾患は、①ヘルパンギーナ(14例→20例)、②マイコプラズマ肺炎【基幹定点】(0例→3例)、③感染性胃腸炎(5例→2例)、④A群溶連菌咽頭炎(2例→1例)、④水痘(2例→1例)、④流行性耳下腺炎(1例→1例)、④流行性角結膜炎【眼科定点】(0例→1例)であった。

(柳生 記)



【病原体(ウイルス)検出情報(平成24年7月)】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、7月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数(平成24年7月検出分)

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
アデノ	2		1		扁桃炎(1)
アデノ	40/41	2			感染性胃腸炎(2)
インフルエンザ	B		1		インフルエンザ様疾患(1)
ロタウイルス	A		1		ロタウイルス感染症疑(1)
コクサッキー	A5	1			ヘルパンギーナ(1)
ライノ		1			手足口病(1)

(保健環境研究センター 記)

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
 アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm